

第 5 回貨幣革新・地域通貨国際会議を開催

～研究者の学術論文および地域通貨実践者のワークショップ提案書を募集開始～

地域通貨の国際的な調査研究機関である The Research Association on Monetary Innovation and Complementary and Community Currencies（本部：フランス・リヨン、組織運営委員長：Prof. Jerome Blanc, Triangle, Sciences Po Lyon, France、以下「RAMICS」）は、第 5 回となる貨幣革新・地域通貨国際会議（以下、本国際会議）を岐阜県高山市で開催します。

本国際会議は、2011 年から隔年で開催されているもので、2019 年は前回のスペイン・バルセロナに次いで日本が開催地となり、「enepo（エネポ）」や「さるぼぼコイン」など、古くから地域通貨などによるコミュニティ形成や経済活性化施策で知られる岐阜県高山市が開催地域に選出されました。

会期は 2019 年 9 月 11 日～15 日で、今回、研究者と実務者からなる組織委員会が開催します。会期前半となる研究者会議では、世界 20 か国超の国際的な研究者が一堂に会し、各地における学術研究を発表しディスカッションを行います。会期後半では、実務を担う事業者が地域経済発展やコミュニティ形成についての発表を行い、シンポジウムやワークショップ、展示ブースなどの形式で、参加者との交流を深めます。



◆第 5 回貨幣革新・地域通貨国際会議の概要

会期：2019 年 9 月 11 日（水）～15 日（日）の 5 日間

場所：高山市民文化会館（住所：岐阜県高山市昭和町 1-118-1）

メインテーマ：「デジタル化？ デジタル・コミュニティ通貨の新たな可能性」

プログラム：研究者による研究成果発表、実務者による発表および知見の共有 *詳細はホームページで順次公開

参加費用：研究者会議 30,000 円（先進国）、15,000 円（発展途上国・先進国学生）、7,500 円（発展途上国学生）／実践者会議 4,000 円（実践者）

開催実績：フランス・リヨン（2011）、オランダ・ハーグ（2013）、ブラジル・サルヴァドール（2015）、スペイン・バルセロナ（2017）、日本・岐阜県高山市（2019）

URL：<https://sites.google.com/view/ramics-2019-takayama/>

◆第5回貨幣革新・地域通貨国際会議 募集要項

＜スケジュール＞

要旨提出期限：2019年3月31日

採択通知期限：2019年4月30日

フルペーパー提出期限：2019年7月12日（学術論文のみ該当）

＜推奨テーマ（学術論文）＞

- ・コミュニティ通貨（地域通貨）・補完通貨の影響と結果
- ・コミュニティ通貨（地域通貨）・補完通貨の歴史的・地域的文脈
- ・デジタル通貨の可能性
- ・決済手段のイノベーション

＜推奨テーマ（実践者提案書）＞

- ・木を用いた地域、文化、教育
- ・都市における自然、文化、経済と技術イノベーションの調和に関連した概念、技術、コミュニティなど
- ・村落における自然、文化、経済と技術イノベーションの調和に関連した概念、技術、コミュニティなど

＜募集要項詳細＞

<https://sites.google.com/view/ramics-2019-takayama/call-for-papers>

◆背景および目的

1990年代後半から2000年代前半にかけて、地域経済活性化施策の一つとして、多くの自治体や商店街で地域通貨の導入が進みました。当時は紙券を媒介手段としていたため、印刷や配送、保管や事務管理などの手間が多く、コストに見合うほどの経済効果が得られないことから、大半が廃止されることとなりました。

現在では、スマートフォンの普及を背景としたデジタル決済方式（QRコード決済など）が普及したことにより、従来の地域通貨に比べ、コストや手間を大幅に削減することが可能となりました。また、政府もキャッシュレス化の推進を後押ししており、地域通貨普及の機運が高まっています。また、景気浮揚策以外の狙いとして、コミュニティ志向の地域通貨が注目を集めており、世界中で導入が広がっています。

本国際会議では、それら地域通貨の研究者および実践者の第一人者が世界各国から集まり、研究成果の発表や知見の共有を行い、我が国のみならず世界に向けて、地域通貨の未来に一定の方向性を見出すことを目指します。また、実務者と研究者の有機的な交流を行い、学術的知見と実務的なニーズを融合させ、地域通貨のさらなる発展を目指します。

◆地域通貨とは

地域通貨は、特定の目的や特定の地域でのみ流通する、法定通貨と同等の価値あるいはまったく異なる価値があるものとして発行され使用される貨幣やポイント制度のこと。概ね以下のような特長を有しているが、明確な定義があるわけではなく、地域やコミュニティによって独自に運用されている。

＜地域通貨の主な定義＞＊専修大学西部忠教授による定義

- ・特定の地域内あるいはコミュニティ（商店街、町内会、NPOなど）においてのみ流通する
- ・市民ないし市民団体（商店街やNPOなど）により発行される
- ・無利子またはマイナス利子
- ・人と人をつなぎ相互交流を深めるリングとしての役割を持つ
- ・価値観やある特定の関心事項を共有し、それを伝えていくメディアとしての側面を持つ
- ・原則的に法定通貨とは交換できない（一部、例外もあり）



NPO 法人活エネルギーアカデミーが展開する「enepo」(左) と飛騨信用組合が提供する「さるぼぼコイン」(右)

【問合せ先】

RAMICS2019 飛騨高山大会組織委員会 (広報担当：佐賀)

Email : ramics2019takayama@googlegroups.com